



ひていけいきけい 動詞の否定継起形「～なくて」

この課では「食べなくて」「歌わなくて」「行かなくて」など、動詞の否定しながら続ける形(否定継起形)を学びます。



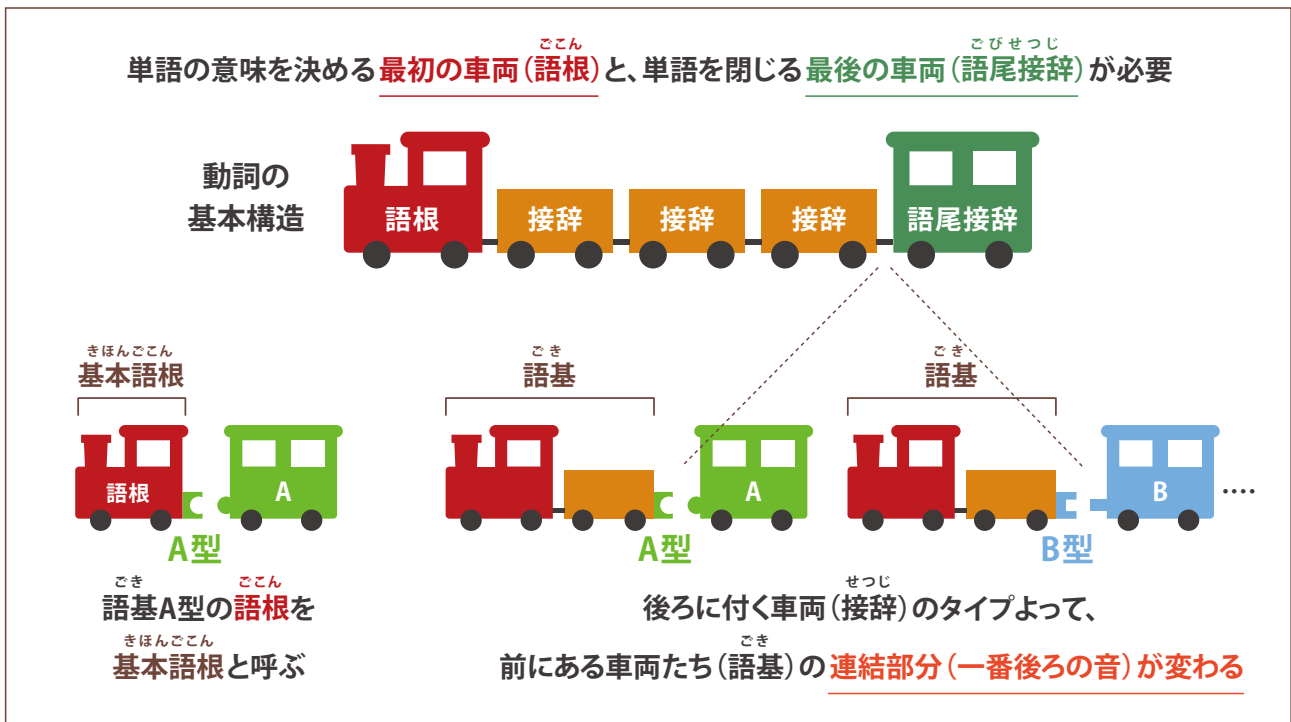
ポイント

1. 動詞の否定継起形「～なくて」は、語基(A型)に、否定継起接辞 -(r)adana¹ がつく。
2. 母音で終わる語基のとき否定継起接辞は -radana で、
子音で終わる語基のとき否定継起接辞は -adana となる。

1 動詞の基本構造 (3-5「動詞の基本構造」参照)

動詞を列車にして説明します。動詞は、単語の意味を決める機関車(語根)に、様々な意味を持つ、付属の車両(接辞)がついて作られます。列車が走るためには、最初の機関車(語根)と、単語を閉じられる、最後の車両(語尾接辞)が必要です。

ある車両(接辞)の前にある車両全体を、その接辞に対する「語基」と呼びます²。後ろに付く車両(接辞)のタイプによって、前にある車両たち(語基)の連結部分(一番後ろの音)が変わります。このように、変化する語基のタイプには、**A型(基本形)**、**B型**、**C型**の3種類があります。語基A型の語根を「**基本語根**」と呼びます。



¹ -は接辞のマークです。

² 語根に直接、語尾接辞が接続する場合には、語基=語根になります。2以降の説明は、すべて語基=語根ですので、語基と語根を読みかえても大丈夫です。

2 否定継起形「～なくて」

否定継起接辞(-radana)は、語基A型に接続します。語基が母音で終わる場合には **-radana**、語基が

子音で終わる場合には **-adana** を付けます。

例えば「呼ぶ」という動詞の場合、基本語根(語基A型)の **abi**³ (母音終わり)に否定継起接辞 **-radana** をつけて **abi-radana** 「**呼ばなくて**」となります。「待つ」という動詞の場合、基本語根の **mat** (子音終わり)に否定継起接辞 **-adana** をつけて **mat-adana** 「**待たなくて**」となります。

	基本語根(語基A型)		否定継起形 「～なくて」
母音終わり	abi 「呼ぶ」	→	abi-radana 「呼ばなくて」
	kuri 「くれる・あげる」	→	kuri-radana 「くれなくて」
子音終わり	hak 「書く」	→	hak-adana 「書かなくて」
	mat 「待つ」	→	mat-adana 「待たなくて」

3 発音してみよう

「～なくて、～なくて…」と文を続ける形は、日常会話でよく使うほか、この後出てくる否定過去形「～なかった」を理解する上でも重要です。色々な動詞で、実際に発音してみましょう。

<p>あびらだな abi -radana 呼ぶ - 否定継起 「呼ばなくて」</p>	<p>なさだな nas -adana 産む - 否定継起 「産まなくて」</p>	<p>しなだな sin -adana 死ぬ - 否定継起 「死ななくて」</p>	<p>はかだな hak -adana 書く - 否定継起 「書かなくて」</p>
<p>まただな mat -adana 待つ - 否定継起 「待たなくて」</p>	<p>ういがだな uig -adana 泳ぐ - 否定継起 「泳がなくて」</p>	<p>かまだな kam -adana 食べる - 否定継起 「食べなくて」</p>	<p>あしばだな asib -adana 遊ぶ - 否定継起 「遊ばなくて」</p>

³ 語根だけの形を、ななめ文字で表します。語根だけでは単語は成り立ちません。

練習問題

(1)-(7) はそれぞれの動詞の^{きほんごこん}基本語根です。

次の動詞の^{ひていけいきけい}否定継起形「～なくて」を予想して書いてみましょう。

(1) *nibu* 「ねむる」 → () 「ねむらなくて」

(2) *furus* 「殺す」 → () 「殺さなくて」

(3) *ak* 「歩く」 → () 「歩かなくて」

(4) *tat* 「立つ」 → () 「立たなくて」

(5) *fuug* 「(船を)こぐ」 → () 「(船を)こがなくて」

(6) *num* 「飲む」 → () 「飲まなくて」

(7) *tub* 「飛ぶ」 → () 「飛ばなくて」
